

まえがき

近年、親と子がコミュニケーションをとる時間は減少傾向にあるようです。

あなたのご家庭はいかがでしょう。

お子さんは家で、いつもゲームばかりしていませんか？

一緒に暮らしていても、会話自体が少ない家庭も多いかもしれません。

今は共働き家庭も多いため、両親とも自分の仕事に追われ、また塾などに通う子どもも多く、気づけば生活がすれ違ってしまいうこともあるでしょう。

昔と比べて、今は子どもの興味を掻き立てるゲームやスマホなども普及し、ひとりで楽しく遊ぶこともできるようになりました。

そのため、会話が減り、家族にうまく気持ち伝わらないことが原因で誤解を招いて、問題が起こることも増えています。

親子の触れ合いの時間が不足していると、子どもが不登校や引きこもりになったり、う

つなどにつながったりする場合もあります。

「自分はいつたいどう子育てをしていけばよいのだろうか？」そんな悩みを抱えている方も多いと思います。

そのような中で、このたび、親子のコミュニケーションをテーマとした書籍の出版依頼をいただきました。

「夢くらふと協会」では、子どもから大人まで、年齢を問わず楽しめるバルーンアートの活用法、アーティストの体験談、日々の活動などの情報発信、バルーンのリサイクル活動の普及などを行っています。

バルーンアートとは、風船工作のことで、バルーンを用いて動物や花などを作ることです。バルーンアートの魅力は、作り手も、もらった側もイマジネーションが刺激されていくことです。

親子で一緒に工作することもできるので、親子間で会話も増え知育にも役立ちます。

子どもたちは、これから先、長い人生を歩んでいくうえで、大切なコミュニケーションの基礎を親子間で養い、身につけていきます。

小さな子どもは、親の行動をまねしながら成長していきます。

そのコミュニケーションツールとしてバルーンアートは最適なのです。

また、子育てだけに留まらず、介護施設でも認知症予防に役立ちます。

さらに、モノづくりに集中して取り組むことは、気分転換にもつながります。

完成したバルーンアートは装飾として部屋に飾るのもいいですし、大切な方へプレゼントするのもおすすめです。

そこから交流が広がりますし、周りの人に喜んでもらうことは、自分の新しい価値の発見や自信にもつながります。

作品を作りあげた達成感はもちろん、バルーンアートを通して仲間と対話することもできる、素晴らしいアートなのです。

一方で、見て楽しむこともでき、完成した風船を渡すとき、そこに言葉はいりません。つまり、言葉が通じない海外の方にもプレゼントすることもできるのです。

バルーンアートはコミュニケーション促進のツールとしてだけではなく、「言葉」という枠を超えてグローバルに創造力や発想力を無限に広げていくことができる、私は信じて

います。